

驟雨 明治40年 第1回文展3等賞 宮崎県立美術館蔵

山内多門



やまうち たもん

山内多門 生誕130年展

2008年10月18日(土) — 11月30日(日) 9:00 — 17:00

※入館は閉館時間の30分前まで
※月曜休館(祝日の場合は開館し翌日休館)

都城市立美術館

観覧料 一般：800円(600円) 高大生：600円(400円) 中学生以下：無料

※()内は前売りおよび10名以上の団体、65歳以上の高齢者、障がいのある方

主催 都城市立美術館、宮崎日日新聞社、南日本新聞社

特別協賛 BTVケーブルテレビ株式会社

主管 山内多門生誕130年展実行委員会

後援 宮崎県、鹿児島県、宮崎県教育委員会、阿久根市、指宿市、霧島市、日置市、都城芸術文化協会、都城史談会、都城ユネスコ協会、都城観光協会、都城商工会議所、株式会社シティエフエム都城

前売り券販売所 都城市：都城市立美術館、山崎文科堂、コスモ画廊、ブルーリボン、都城市各総合支所教育課/宮崎市：宮崎県立美術館、宮崎山形屋プレイガイド、宮日会館1F受付/鹿児島県：霧島アートの森、山形屋プレイガイド

都城市立美術館 885-0073 宮崎県都城市姫城町7街区18号 tel: 0986-25-1447 fax: 0986-24-8103

山内多門 生誕130年展

「日本美術」という雑誌がありました。明治31年の秋、日本画の革新をめざして岡倉天心が橋本雅邦や横山大観らを引き連れ、東京谷中に設立した日本美術院の機関誌です。

明治32年2月、山内多門は小学校の教壇に立ち母親と暮らしていました。幼いころから絵が好きで、狩野派の中原南溪に師事していましたが、その師も既になく導く者のないまま多門は21歳になろうとしていました。乾いた土に水が浸みるように彼は「日本美術」に吸い寄せられ、周囲は反対しますが姉夫婦の理解を得て上京します。

上京して日本美術院の俊英、川合玉堂に入門し、翌年には玉堂の紹介で雅邦にも入門します。この二人の師のもと多門は日本美術院の公募展に第2回展から最後の第10回展まで欠かさず出品し、第3回展のほかは毎回入賞するという華々しいスタートを切ります。そして明治36年、第5回国内勸業博覧会に「西王母」を出品し、同40年には初めての全国公募展である文部省美術展覧会（文展）で「驟雨」が3等賞を射とめます。以来、多門は文展に出品を続け、第5回展では「日光山の四季」が首席3等賞となり文部省に買い上げられ、続く第6回展の「郡上十二景」、第9回展の「盛夏・初冬」も3等賞となり全国の注目を集めるようになります。大正8年、文展が帝展に代わると第1回展では「天

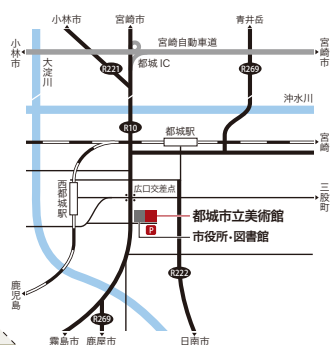
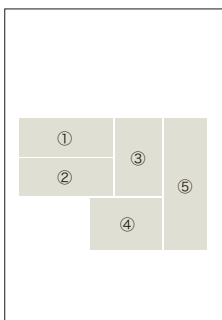
龍四季」を推薦出品、第2回展からは審査委員として第10回展までその要職を務めます。第5回展では主任審査委員でした。このようにその活動が日本画壇の中核として本格化し名声が確立してきたとき、惜しくも彼は病にたおれ、昭和4年の第10回展を最後に同7年、54歳という若さでこの世を去りました。

多門の歩みは一見揺らぐことのない順調な一筋の道のように見えますが、この時代、画家たちは江戸時代の伝統からどのように新しい日本画を生み出すかに腐心していました。玉堂は多門についてこう言っています。「思潮の推移、表現の変化があまりなき時代によく時流に染まず個性を一貫してその特色を残したところに一段貴い彼独自の存在を認める」「他の門人と全然異なった北宗系の健筆を振う一人きりの大切な存在であった」と。多門も内実はその個性に悩むこともあったかもしれません。しかし、やはり多門は多門として在り続け、次々と他の追随を許さない独自の山水画を生み出していきました。思えば草深い辺境の狩野派の系譜の中から、わが身ひとつで中央画壇の変革期に飛び込み、己が信ずる道を武骨に生き抜いたのです。

上京の時から1世紀余、郷里の未だ知らない輝かしい画業の数々を携え、今ここに多門が帰ってきます。可能な限り代表作を網羅したこの特別展は多門の生涯をかけた画業をつぶさに見ることができると同時に多門芸術の神髄に思いを馳せる絶好の機会となるでしょう。



- ①日光山の四季(冬)(部分) 明治44(1911)年 / 第5回文展(首席3等賞) 47.4 x 504.0 cm [東京国立近代美術館蔵]
- ②颯風(左隻) 大正3(1914)年 / 第8回文展 152.4 x 368.3 cm [宮崎県立美術館蔵]
- ③竹林七賢 明治36(1903)年 142.2 x 86.2 cm [宮崎県立美術館蔵]
- ④金剛山 大正10(1921)年 84.3 x 117.9 cm [都城市立美術館蔵]
- ⑤雨後筑波 昭和2(1927)年 172.2 x 57.2 cm [都城市立美術館蔵]



J R
 - 日豊本線「西都城駅」で下車、徒歩約10分
 - 吉都線「都城駅」で下車、タクシー約10分

バス
 - 「美術館前バス停」で下車
 - 「広口バス停」又は「西広口バス停」で下車、徒歩約5分
 - 「市役所前バス停」で下車、徒歩約2分
 - 「早鈴入口バス停」で下車、徒歩約3分

自動車
 - 宮崎自動車道「都城IC」から都城方面へ約20分
 - 東九州自動車道「末吉・財部IC」から都城方面へ約20分

駐車場(無料)
 - 市役所駐車場約140台(身障者専用スペース1台)
 ※他施設との共用の為、充分な駐車スペースではありません。なるべく公共の交通機関をご利用ください。

入館料

- 一般 800円(600円)
- 高校・大学生 600円(400円)
- 小学・中学生 無料

※開館時間は午前9時～午後5時(入館は開館時間の30分前まで)
 ※月曜休館(祝日の場合は開館し翌日休館)
 ※()内は前売りおよび10名以上の団体、65歳以上の高齢者、障がいのある方
 ※団体は予約をお願いします。

都城市立美術館
 885-0073 宮崎県都城市姫城町7街区18号
 tel: 0986-25-1447 fax: 0986-24-8103

講演会

- ①2008年10月18日(土) 14:00-15:30
 会場: 都城市コミュニティセンター
 講師: 塩谷 純(東京文化財研究所 文化形成研究室長)
 演題: 「日本画、近代の潮流と山内多門」
- ②2008年11月8日(土) 14:00-15:30
 会場: 都城市中央公民館
 講師: 冨迫美幸(都城市立美術館 学芸員)
 演題: 「山内多門の生涯と芸術」

ギャラリートーク

- 解説/冨迫美幸(都城市立美術館 学芸員)
- ①2008年11月3日(月) 14:00-15:30
- ②2008年11月23日(日) 14:00-15:30
- ③随時(団体など事前申し込みにより)

山内多門 生誕130年展
 ※1枚につき1名様
 ※のり有効です
 ※他の割引とは併用
 できません

100円引